十訓抄 ・大江山・

あらすじ 次の空欄に適語を入れて、内容を整理しなさい。

第一段	第二段	第三段
都で歌合があったときに、〔①　　〕の娘の小式部内侍が歌合の詠み手として選ばれて歌を詠んだ。そのとき定頼中納言がふざけて、小式部に「〔②　　〕のもとにおやりになった使いの人は都へ帰参しましたか。どんなに帰りを待ち遠しくお思いのことでしょう。」と言い、部屋の前を通り過ぎたが、小式部は、 大江山……（大江山から生野へとたどって行く丹後への道は遠いので、私はまだ〔③　　〕に足を踏み入れたこともないし、そこにいる母からの〔④　　〕なども見たことはありません。） と歌を詠みかけた。中納言は、即興の歌の〔⑤　　〕が意外で驚いてしまって、返歌もできずに、袖を振り放して逃げてしまった。	小式部は、このことがあってから歌詠みとしての〔⑥　　〕が出てきたのだった。	中納言には、小式部がこれほどの歌を〔⑦　　〕詠み出すことができるだろうとは、分からなかったのだろうか。

重要語句 次の語句の意味を答えなさい。

(1) 遣はす
(2) いかに
(3) 心もとなし
(4) おぼす
(5) あさまし
(6) かかる
(7) 世
(8) おぼえ

重要文法 次の傍線部の形容詞について、①活用の種類と②活用形を後ろの語群から適当なものをそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

(1) いかに心もとなくおぼすらむ。（二四・7〜8）　①　②
(2) 思はずにあさましくて（二五・1）　①　②

活用の種類　ア　ク活用　イ　シク活用
活用形　ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

内容理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 次の動作の主は誰か。次の中から適当なものをそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

(1) 局の前を過ぎられけるを（二四・8）［　　］

(2) 直衣の袖をひかへて（二四・9〜10）［　　］

ア 和泉式部　イ 保昌　ウ 小式部内侍　エ 定頼

2 「たはぶれて」（二四・5）とあるが、この行為に込められている定頼の気持ちとして適当なものを次の中から一つ選んで記号で答えなさい。［　　］

ア 賞賛　イ 驚き　ウ 皮肉　エ 妬み

3 「丹後へ遣はしける人」（二四・6）とあるが、定頼はどのようなことを考えて、小式部内侍が使いを出したと言っているのか。これをまとめた次の文の空欄に、あてはまる語句を補って文を完成させなさい。

［　A　］に歌合の［　B　］の［　C　］を頼んだのではないかということ。

4 次の文は「大江山」の歌（二四・11）の掛詞をまとめたものである。空欄にあてはまる語句を補って文を完成させなさい。

大江山いくの［　A　］の［　B　］道の遠ければ、

まだふみ［　C　］［　D　］もみず天の橋立

5 次の文は、「あさましくて」（二五・1）に表れている定頼の気持ちをまとめたものである。空欄にあてはまる語句を補って文を完成させなさい。

［　A　］の歌が［　B　］ことに対する［　C　］の気持ち。

6 「かかるやうやはある。」（二五・1）について、

(1) 「かかるやう」とはどのようなことを指すか答えなさい。［　　］

(2) 定頼がこう言った理由として適当なものを次の中から一つ選んで記号で答えなさい。［　　］

ア 定頼は、小式部内侍の歌詠みとしてのすばらしさに感心させられたから。

イ 定頼は、小式部内侍が他の人の力を借りずに歌を作ったとは信じていなかったから。

ウ 定頼は、小式部内侍が自分一人ではうまい歌を作れないと思っていたために驚いたから。

エ 定頼は、小式部内侍は和泉式部の娘だから歌がうまいのだろうと納得したから。

7 小式部内侍の応答の見事さはどのような点にあるか。簡潔に説明しなさい。

［　　］